

寿楽委員への回答

首都大学東京 山崎晴雄

前回委員会での活断層の報告は、活断層に関する現在の知識の概況と活断層評価の問題点など、技術的な問題について述べたものであり、HLWの地層処分を正当化し、あるいは他に選択肢がないと言う趣旨で述べたものではありません。地層処分の推進に関して、社会的な合意の形成が必要なことは当然と考えています。ただ、私の知っている活断層に関して言えば、合意の形成に必要な科学的な情報の提供について様々な立場から多様な見解が提示され、その中には誤解や風評に基づくと思われる議論も展開されているように思います。

ご指摘のように、HLW処分では（特に地質環境に関しては）他の大規模プロジェクトのような社会経験に基づく **common sense** の醸成が不十分で、それが社会の合意形成を遅らせている一つの原因ではないかと思います。しかし、人類の生活時間のスケールと比べて桁違いに長い地質環境の変化等に関しては、我々は全く体験がなく社会的な **common sense** が存在しないということも、また、明らかなことと思います。そのため、地層処分について社会的な合意を形成していくためには、人々が活断層に限らず自然現象全般に対する様々な情報を大略理解できる社会的なバックグラウンドを形成していくことが必要と考えます。